

2019 学校評価公表シート

岩見沢聖十字幼稚園

1、園の教育目標

<ul style="list-style-type: none"> ・あかるい子ども ・元気な子ども ・かしこい子ども ・やさしい子ども 	<p>聖書の言葉に親しみ、苦しいときや悲しいときにこそ、くじけずに進める子ども 豊かな自然の中でからだをきたえ、こころもからだも芯から粘り強い子ども さまざまな文化に触れ、行事をつくる体験から学び、自分たちで考え行動できる子ども 悲しんでいる人、困っている人に共感できる優しい子ども</p>
---	--

2、本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画

・保育環境の整備・充実 ・教職員の力量向上と同僚性の醸成 ・北私幼南空知支部研究大会保育公開

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<p>・園の教育課程は幼稚園の教育要領を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成している。</p>	<p>・園の教育理念であるキリスト教の精神を大事にしながら、職員全体が一致した方針の下で保育ができるように日々の会議や反省会の中で交流してきた。また、新しい幼稚園教育要領の改訂・施行に合わせて、昨年度から教育課程の見直しをしてきた。忙しすぎるカリキュラムを一つ一つ見直して、小さなことから削減したり年齢や子どもの実態に応じて組み立て直してきた。</p>
<p>・幼児期の発達にふさわしい生活を展開できるように指導計画を作成している。</p>	<p>・教育課程の編成にあたっては、現在行っている教育内容が10の姿のどこにつながっているかを精査し、残すもの、増やすもの、変えるもの、削減するものを分けてきた。また、「子ども自身が自分で選択して行動できる取り組み」や「子ども同士が相談したり教え合いながらできる取り組み」を増やした。例えば、年長児お泊り保育で、チームごとに秘密基地を作ったり、例年は各クラスの設定保育で行う節分の柵づくりを、自由遊びの時間、複数のお部屋に用意してある作品と制作方法を見て自分で選択し、子ども同士や他のクラスの先生に教えてもらうような、クラスの枠組みを超えた柔軟な取り組みも試してみた。大変意義深い成果があり、今後の方向性を決めるひとつになった。</p>
<p>・安全で清潔感のある環境構成をしている。</p>	<p>・毎日の丁寧な清掃と、危険箇所のチェックを多くの教職員で行い、報告のあった箇所についてすぐ対応するよう努めたため、遊びの中の事故は激減した。幼稚園を安全に利用してもらうための約束事を「ルールブック」にまとめ、交通事故や連絡事故、ネットによる情報管理の事故などへの注意を呼び掛けた。6月の胆振東部地震をきっかけに、ICT化を強化した。また、職員は緊急連絡カードを常時携帯することにした。感染症対策の研修への参加や園内研修を行い、保護者への感染症発生のお知らせや園閉鎖等の対策により感染症の拡大を防ぐ努力を行った。インフルエンザの流行を反省し、ウィルス対応の空気清浄機を導入した。</p>
<p>・幼児一人一人の姿を受け入れ、その子の良さを認めるよう心掛けている。</p>	<p>・配置基準数を超えて教職員を多く配置しており、情報共有する時間を設定しながら、チームとして個々の保育にあたることができた。日々の反省会や、学期ごとのケース会議などを通して、全員職員で全園児の保育に関わる意識を持ちあった。また、特別支援教育の必要な園児に対する指導方法の研修や、関係機関・病院などへ保護者と同行するなどして、保育方法の改善を図った。</p>
<p>・保護者との信頼関係を築くように努めている。</p>	<p>・家庭訪問、個人懇談、親子レク、送迎の時間、お便りノート、電話連絡などで園児の様子を保護者に伝える努力をしていた。また、ホームページで日々の保育の様子を伝えている。</p>
<p>・地域の自然や社会とのかかわりを持つように努める。</p>	<p>・森での活動やすり山登山、田植え・リンゴ狩り等、ふるさとの自然を生かした活動を行っている。また、環境教育でのゴミ拾い、老人ホーム慰問、バザー・フェスティバル、収穫感謝の餅つき、歩くスキー等、様々な場面で地域の方との交流の機会も多い。今後も地域に根ざした保育を行いたい。</p>
<p>・保育者としての専門性を高めるための各研修会に積極的に参加する。</p>	<p>・特別支援教育に関しての法人内研修では実践レポートを持ち寄り、積極的な討議を通して学び合うことができた。・遊び環境に関する研修は、東京から2名の専門家を招いて、年間を通じた研修とワークショップを保護者とともに行うことができた。また、全国セミナーの会場園として研修会を事務局と共に創り、環境だけでなく保育観も大きく変わり、子ども理解が深まった。</p>
<p>・人事管理・財務管理を適正に行う。</p>	<p>・公認会計士により、適正に運営されていると認められている。</p>

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

A	<p>昨年度に引き続き、園内や園庭改造などのダイナミックな活動があったため、全職員と保護者が一つの目標に向かって一致して協力することができた。また園庭改造スタートから1年半が過ぎ、明らかかな子ども達の変容が見られるようになった。体幹の強さや俊敏性だけでなく、粘り強さ、集中力、人との関わり、自分に対する自信などが、行事や日々の保育の中で見られるようになったため、園長および教職員の自己評価と保護者・関係者の評価はおおむねAであった。教育課程に運動するような園内環境になるまでは、まだまだ時間がかかるが、職員と保護者と子ども達がひとつひとつ夢を語り合いながら、実現に向けて今後も進んでいきたい。</p>
---	--

5.今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 園内環境整備を通して、挑戦できる遊具での不慮の事故が起きないように、毎日の安全点検を徹底していく。また、園独自の火災・地震訓練やコミュニティ全体の防災訓練への参加など、実践的な防災訓練を続けていきたい。
教育課程の整備と南空知支部研究大会	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の改訂から1年がたち、実践してみても新たな課題が見えてきた。行事や日々の保育の中で、子どもがより主体的に活動できる保育内容を試行錯誤しながらさらに整備を進めていきたい。9月に行われる北私幼南空知支部研究大会の会場園として、本園の教育課程と園内環境を通してより良い保育への提言をしていきたい。
園内環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 園内と園庭の環境整備と保育内容を連動させて、より子どもたちが自主的に活動を選択し、子ども同士が相談したり協力し合う活動に対応できる環境づくりを進めていきたい。
園舎の改修・増築	<ul style="list-style-type: none"> 園舎の水回り等の老朽化と、不足している保育室や収納場所などの解決のために、園舎の改築または増築の計画を具体的に立てる必要がある。